

福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例 -JAPANDI空間に合うコンパクトな桐箆笥の開発-

隈本 あゆみ^{*1} 友延 憲幸^{*1} 富永 由佳^{*1} 青木 幹太^{*2} 加島 功一^{*3} 佐々木 健五

The Project with which it's Supported to Improve the Furniture Branding. The Example Product Development by the Project with which its Supported to Advance the Product Planning Capability

-The Product Development of A Compact Paulownia Chest of Drawers that Fits The JAPANDI Space -
Ayumi Kumamoto, Noriyuki Tomonobu, Yuka Tominaga, Kanta Aoki,
Kouichi Kashima and Kengo Sasaki

株式会社総桐箆笥和光は、桐箆笥、及び桐製品の製造販売を行っている企業である。伝統産業の枠にとらわれない先進的な取組の実践を実践しており、その一環で「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」に参加し、製品開発に取り組んだ。その結果、少ない枚数の着物を所有する着物ビギナーに向けた、圧迫感を与えず、JAPANDIな雰囲気にも調和する和モダンな桐箆笥収納というコンセプトを構築し、佐々木健五デザイナーがデザインを担い、JAPANDI空間に合うコンパクトな桐箆笥を開発し製品化した。

1 はじめに

本報では、「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」（以下、「本事業」という）における株式会社総桐箆笥和光（以下、「和光」という）の製品開発の取り組みを報告する。本事業の目的や概要については、令和2年度研究報告掲載「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例（その1）」¹⁾を参照していただきたい。また、本事業において和光の製品開発に関わった製品開発グループおよびデザイン事業者のメンバーを表1に示す。

表1 製品開発グループとデザイン事業者

製品開発グループ	デザイン事業者
・九州産業大学 芸術学部 青木幹太教授 ・株式会社総桐箆笥和光 ・インテリア研究所	・佐々木健五

駆使し、伝統的な桐箆笥（写真1左参照）や桐の特徴を活かした様々な製品の製造販売を行っている企業である。特に「組子ベッド」（特許取得済）は伝統工芸である組子をベッド床板に取り入れる画期的な製品として人気がある（写真1右参照）。しかし、主力である桐箆笥の販売が年々減少する中、従来とは違う新しい客層を取り込みたいと考え、本事業に参加し現代のニーズに合った桐箆笥の商品開発を行うこととなった。



写真1 和光製品 桐箆笥（左）と
特許取得技術で製造した組子ベッド（右）

2 事業の取り組み内容

2-1 製品開発の目的

和光は、伝統的な技術と NC 加工機等の精密機器を

2-2 製品コンセプトの構築とデザイン事業者の選定

製品コンセプトの構築は和光が中心となり、適宜、製品開発グループがフォローをする体制で行った。

まず、和光が呉服店に桐箆笥のニーズ調査を行った。その結果、大型で古風な装飾が施された伝統的な

^{*1} インテリア研究所
^{*2} 九州産業大学 芸術学部
^{*3} 株式会社総桐箆笥和光

桐箆笥ではなく、小型でモダンな桐箆笥のニーズがあることが分かった。また、和光では「優（ゆう）」という既存製品があり（写真 2）、この製品を発表した際に、組み合わせ可能な点やコンパクトな点がバイヤーから好評であった。これらのことから、従来の大型の桐箆笥ではなくモダンな外観で、着物が増えてきた時に買い足すことで収納容積を増やすことができる“カスタマイズできる桐箆笥”を開発することとした。モダンな外観については和光の希望に従い、日本的な要素と北欧的な要素をミックスさせた JAPANDI というインテリアテイストを目指した。



写真 2 バイヤーから好評だった
和光の既存製品「優（ゆう）」

次に、製品開発グループはデザイン仕様書の作成を行った。デザイン仕様書とは、デザイン事業者に委託する製品デザインの内容を細かく記載したものである（図 1）。開発グループで議論を重ね、“着物ビギナーに向けた、「桐箆笥ユニット」と「その他のユニット」を生活スタイルに合わせてカスタマイズできる収納家具”というコンセプトを構築し、これに基づきデザイン事業者を全国から募集した。

公募の結果、複数寄せられたデザイン提案の中から、最もコンセプトに添い、JAPANDI の雰囲気を持った佐々木健五氏（以下、佐々木氏）（神奈川県）の「NEW LAYER（ニューレイヤー）」（図2）を採択した。

2-3 デザインの具現化(製品の製作)

製品開発グループと佐々木氏は、「NEW LAYER」開発において、以下 2 点の課題を解決し具現化した。

（基本コンセプト）

- ・「桐箆笥ユニット」を収納家具のベースとする
- ・後から「桐箆笥ユニット」を買い足すことで着物の収納容積を増やし、「その他のユニット」と自由に組み合わせることで使用者に合わせた使い方ができる

（デザイン仕様書の主な仕様）

- ・リビングや自室での使用を前提とし、現代の狭小住宅でも圧迫感を与えない外形デザインであること
- ・伝統的な桐箆笥(和箆笥)の印象ではなく、和モダンな外観デザインであり、JAPANDI な雰囲気のインテリアとの調和が取れること
- ・たとう紙に入れた着物を数着、平置き状態で引出しに収納・保管できる桐箆笥
- ・着物の収納・保管を目的とするユニットのため、引出しの気密性を保つこと
- ・桐材のほか、ウォールナット、オーク、ホワイトアッシュ、パインなど一般的な家具に使用される木材を使用可
- ・スチール、真鍮、ガラス、レジンなど異素材を使用可

図 1 仕様書の概要



図 2 「NEW LAYER」

① シンプルで洗練されたデザイン

和光は軽微な金属溶接は行えるが、「NEW LAYER」のように金属フレームが製品デザインの要となるような高度な金属加工には対応できなかった。そこで、高度な金属加工が可能な鉄工所へフレームの製造を外注することとなった。外注先と議論を重ね、強度を考慮したフレーム寸法の微調整を行い、最終的に既成のパイプとスチール板を活用し黒焼き付け塗装で仕上げることとなった。

②横揺れ、たわみへの対応

デザイン提案当初のデザインは桐箆箭の側板に脚が組み込まれた構造であった（図2右参照）。しかし、この構造では水平方向に対する剛性が不足しており、強度が不足する恐れがあった。加えて、本開発のコンセプトである「組み合わせできる」という点において、ユニットを重ねることで重量が増し、底面がたわむことが予想された。

そこで、佐々木氏から横揺れ、たわみを考慮した複数案のデザインの再提案を受けた。再提案されたデザインの中から加工性と外観において、最も優位性のあるデザインを製品に採用した（図3）。



図3 最終デザイン

以上、2点の課題を解決し、「NEW LAYER」の製品化に至った（写真3）。

「NEW LAYER」は意匠権の保護を目的として、和光と福岡県の共同出願という形で、全体意匠を出願し、登録された²⁾。



写真3 完成した「NEW LAYER」

3 まとめ

和光は本事業へ参加し、製品開発グループの協力を得て、JAPANDI空間に合うコンパクトな桐箆箭の製品

コンセプトを構築した。更にそのコンセプトに基づいたデザインを佐々木氏が担当することで、「NEW LAYER」を製品化した。

現在、展示会へ出展するなど精力的な販促活動に努めている（写真4）。



写真4 展示会出展の様子

4 参考文献

- 1) 石川弘之，隈本あゆみ，西村博之，青木幹太，酒見史裕，酒見典広，田中敏憲：福岡県工業技術センター研究報告，No30，pp. 21-24 (2020)
- 2) 著作者：意匠登録 第1760354号